

作物名：りんご

病害虫名：ギンモンハモグリガ（病原：*Lyonetia prunifoliella malinella*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 幼虫が葉に線状や斑状に潜孔する。葉の裏にハンモック状の繭をつくり蛹化する。
- 被害が広がると、葉の半分から全体が食害され、褐変して落葉する。
- 第三世代の発生する7月後半から被害が目立つようになり、被害は樹冠の外側に多くなる。



写真1 ギンモンハモグリガ繭

2 発生生態

- 東北では年5～6回発生する。第2世代は6月中旬～下旬、第3世代は7月上旬、第三世代以降はおよそ25日周期で世代を繰り返す。発生世代を繰り返すにつれ、発生量が増加する。
- 成虫態の雌が人家等の壁面、樹の空洞部、生垣等で越冬する。越冬世代は展葉期頃園内に飛来し、若い軟らかい葉の裏側から葉内に卵を生み付ける。第2世代以降は徒長枝や二次伸長枝の先端の若い葉に限り産卵する。

3 防除方法

- 産卵盛期に、IGR 剤等を新梢全体にていねいに散布する。

4 出典

（1）参考文献

- ひと目でわかる果樹の病害虫 第三巻（日本植物防疫協会）
- 農業総論 病害虫防除 資材編5（農文協）

（2）写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

（令和5年9月改訂）